

平成24年度第7回伊予市行政評価委員会 会議録

日 時：平成24年10月3日 18時30分～21時00分

場 所：第3委員会室

出席者：妹尾委員長 高橋副委員長 向井委員 武智委員 曾根委員 藤本委員
事務局（森田 窪田 向井）

1 開会

会議の成立及び傍聴者はいないことを確認した。

2 議事

(1) 報告事項

① 現在の取組状況

外部評価件数69件確定

経営者会議 第2回 10月1日（40件審議）

第3回 11月12日開催予定

(2) 審議事項

① 第6回会議録の確認

- ・前回の委員会の内容を、配布した資料を基に確認を行った。

② 行政評価（外部評価）

No. 48 交流促進センター管理運営事業

（委員）

売上金額が増加しているが客単価が15%程度減少している。客単価が増加する取組をお願いしたい。また、指定管理者制度を導入しているという事業の中では事業費に対する売上金額の比率が一番高い。少ない委託料で多くの売上を計上しているということであればたいへん結構なことだと思う。

（委員）

昨年度に比べ集客数の実績が上がっているので、集客数に見合った売上額を目指して頑張りたい。

（委員）

決算の中身について聞きたいのだが。

（事務局）

指定管理料として400万円、平成22年度も同額である。それ以外は施設の修繕料が主である。

（委員）

利用者数も売上額も伸びているようなので、指定管理者制度の観点からすると実績は残せていると考えてもいいと思う。所属長の課題認識によると、長期に渡って同じ指定管理者ではマンネリ化すると記述されているがそれはどういうことか。簡単にマンネリ化と一言で済ますのはどうかと思う。

(委員)

私は花の森ホテルをよく利用するが、それなりに工夫がされており、リピート利用してもいいと思えるような運営努力を感じることができる。売上額等のデータにもそれが反映されているのではないかと。ただ、足腰が悪い方にとって座敷での食事が難しい場合があるので、その対応をお願いしたい。運営自体は順調のようなので継続路線に加え、先程の座敷対応をお願いしたい。

(委員)

私も利用したことがあるが、食事も良く大変気持ちのいい思いをさせていただいた。このような施設は、リピート利用されるような何かがないと後々難しくなると思う。口コミで広がる部分もあるだろうから、そういうところに工夫をすればますます良くなるのではないかと。評価シートを見る限り目標も徐々に高くしているので、良いことだと思う。

(委員長)

指定管理の期間は何年なのか。

(事務局)

5年である。

(委員長)

5年か。それなら、所属長の課題認識にマンネリ化という表現が出てきても不思議ではない。このような集客施設は日々新たであり、ソフトもハードもかなり進化が激しいところである。

ところで、指定管理に応募してきた事業者はどのくらいあったのか。

(事務局)

1社である。

(委員長)

指定管理者制度というのは一見ガラス張りに見えるが結構厳しい部分があり、行政と事業者両方を縛ってしまう。また、議会の議決を必要とし、最終的には首長の行政処分ということになるが、5年は長いのだろう。ここを見直すと、所属長の課題認識のマンネリ化についてはクリアできるだろう。指定管理者からすると良いものではないかもしれないが。

No. 50 クラブの里管理運営事業

(委員)

高速道路の社会実験終了後は入り込み客数が回復してきたということだが、私の印象では以前ほど賑わっていないと感じる。そば打ち体験施設が開設されたときは、小学校PTA等での利用も多くあったと思うが、現在はあまりないのではないかと。例えば、そば打ち体験と木工体験を組み合わせ一日体験コースにしたり、花の森ホテルとタイアップしたりするような工夫を行うといいと思う。

(委員)

平成22年度と平成23年度の直接事業費の差額約200万円はどういうものか。

(事務局)

高速道路の社会実験による売上の減少に対し、これまで指定管理料を支出していなかったそば打ち体験道場とウッドクラフトセンターの2施設に対し、平成23年度から320万円の指定管理料を加算して支出している。平成22年度には指定管理者である栗の里なかやまの経営改善計画を策定するためにコンサルタント料を約150万円支出していたが、平成23年度にはコンサルタント料は支出していないので、その差額が約200万円になる。

(委員)

経営改善計画が効果を発揮し入り込み客数も増え、販売額も増えていると理解ができなくもない。私は必要がある施設ではないかと理解をしているが、もっと物を売るということを前面に出すべきではないかと思う。売り場がおとなしすぎるような印象があるので、例えば、イベントをやって物を売るというような機会を作ってやればいいのではないかと強く思う。

(委員)

先程の発言のとおり、物を売るということを念頭に置いておかないといけない。実際、ピーク時には現在の4倍近い売上があったはずだ。高速道路の無料化社会実験があったにしろ、もっと努力が必要だろう。

(委員)

入り込み客数及び販売額が順調に伸びていると思っていたが、先程の話ではピーク時4分の1程度であるということで、それに比べると物足りない感じがする。今後、ぜひ賑わいを取り戻すように頑張ってください。

(委員)

成果指標の取扱いについて、事業内容から見ると展示販売と製作体験の二つに分かれると思う。この事業を代表するような指標がいいと思うのだが、この評価シートでは入り込み客数を指標としている。単なる客数を指標とするのではなく、例えばテーブル数、座席数、年間の総営業時間等を考慮し、受け入れ可能最大数を分母にし、どのくらいの割合で集客できたかという指標を用いればいいのではないかと思う。

(委員長)

成果指標の目標と実績について、平成24年度の目標値が平成23年度の実績を考慮せずに同じ目標値となっているところが気になる。他には、クラフトセンターでは木工品の販売を行っているが、そこに木材工芸品の工房を置いたらどうだろう。つまり、作っているところが見学できるようにすれば、木工体験とうまくリンクするのではないか。また、小さいものだけでなく茶箆筥やテーブルのように大きな作品も販売すればいいと思う。

(委員)

委員長が言われるように、クラフトセンターだから木を中心にしないといけない。

(委員長)

いろいろな工芸品がどうやってできるのかというところを見せる。木の壺は難しい技術だと思う。茶たくななどの大きな作品を作っているところを見せるとインパクトもあると思う。作った茶たくに砥部焼きを置けば、砥部町との連携もできるのではないか。

(委員)

クラフトセンターのイメージとして産直市場が前面に出ているが、それはおかしいだろう。

(委員)

産直市場にしても資料のように賑わっていないように思うが。

(委員)

産直市場も売れたらそのまま補充しないため、賑わいが薄れていると思う。また、この施設はレイアウトの見直しが必要ではないだろうか。

(委員長)

商品は中山地域で作っているのか。

(委員)

そうだと思う。先程の発言のように産直市場を奥にするなど、レイアウトは見直したほうがいいと思う。

(委員長)

小学校の総合学習の場としても活用できると思う。また、栗の実と一緒に栗の木も展示すればいいと思う。栗の木が木工品の材料になるということを知らない人は多いだろうから。あと、花の森ホテルとは指定管理者は違うのか。

(事務局)

花の森ホテルとは違う指定管理者であって、そば打ち体験施設及びウッドクラフトセンター、トイレは栗の里なかやま、木工クラフト体験施設は木遊舎となっている。

(委員長)

原体験で栗や蕎麦がピンときていない人が現場にいるとそれは伝わらないだろう。もう少しやり方があると思う。目標設定を見ても少し志が低いかなと思う。

No, 51 遊栗館管理運営事業

(委員)

売上金額が低すぎるという印象で客単価も低い。No, 50クラフトの里管理運営事業でも発言したが、成果指標については、受け入れ可能総数を分母にした指数を使うべきではないか。

(委員)

売上等の実績は多少でも伸びているが、高速道路の社会実験以前はもっと売上があったと思うので、その回復に向け頑張っていただきたい。

(委員)

遊栗館は食堂だけだ。観光バスも入れない設計になっていてあまり来客が見込めない。旧町時代は町関係の会合を行ったりしていたが、現在はそれも少なくなってきている。補助金の関係ですぐには廃止できないかもしれないが、ゆくゆくは廃止したらいいと思う。

(委員)

利用者、売上共に増加しているのであまり厳しいことも言えないところだが、利用したことがある者から発言すると、観光栗拾い等の企画をするしかないと思う。しかし、旅行会社で企画した栗拾いツアーは応募者が少なく運行できなかったということもあったようで、栗だけでは観光

は難しいところだろう。

(委員)

花の森ホテルも食事ができて、その下にある遊栗館も食事をするところということで、設置場所、事業内容共に中途半端であまり利用がないのではないか。改善策の具体的取り組みに、施設の有効利用を図り、経費の節減に努めるとしているわりに何もできていないという印象だ。課題認識も1行であるし、もっと有効利用するにはどうするか、どういうふうに関費削減を図るか具体的に示すべきではないだろうか。

(委員長)

No. 50クラフトの里管理運営事業もそうだが、事業の対象者に都市住民という表現が使われている。都会の人という意味だと思うが、もう少し焦点を絞ったところが反映されてもいいと思う。自己の課題認識では、引き続き指定管理者による管理運営が妥当であると記述されているが、妥当でなかったら直営に戻るだけなので、このあたりからも評価シートを作らなければいけないから作ったという感じを受ける。成果指標の目標設定も甘いし、失敗したくないというのは分かるがもう少し何かがあってもいいと思う。

No. 53 中山フラワーハウス管理運営事業

(委員)

10年くらい前に行ったことがあるが、こんなところにハウスがあるのかと驚いたことを覚えている。しかし、何かもったいないような気がする。目的が栽培技術の実証的な試験研究ならば、ふれあいの場というよりも試験研究という部分を強調して使わないといけないと思う。花きの展示即売をしてもあの場所まで行って買う人も少ないと思う。

(委員)

栽培技術の試験研究とは、行政の下支えによってトップクラスの花きの苗を研究することで、そこでの花き栽培技術で儲ける人が出てくると、その方からの税金で市が潤うということだ。行政が何をすればいいかという、お金を出すだけではなく潤いを与えるようでないといけない。現在の状況を見ると、そういう感じを全く受けない。花きの研究開発によって素晴らしい花を作ればものすごい儲けになると思うが、そうしないで一般的な花を売っている状態だ。

(委員長)

設置の趣旨が違っているということか。

(委員)

違っていると思う。花きの栽培技術の研究が中心にならないといけないと思う。

(委員)

東温市にある花き総合指導センターをイメージしているのかもしれないが、花きを育てるスペースがない。そこまで発展しないのは見え見えではないか。

(委員長)

それでは、受ける指定管理者も厳しいところだ。

(委員)

例えばだが、園芸教室の需要は多いと思う。高齢者大学校でも文芸、陶芸、園芸で定員を割ら

ないのは園芸だけだ。広く他市からも生徒を受け入れることができるように、スクールバスを運行し、園芸教室を行うということも検討すればいいと思う。

(委員)

花の森ホテルにはバスがあるから、スクールバスを検討してはどうか。

(委員)

売上が少し上がっていることはいいが、むしろ入場者数が減っていることが問題ではないか。知名度がないので、もっとこの施設の売りをはっきりさせた上で、知名度を上げるようなことをしないといけないと思う。

(委員)

売上が低いという印象だ。これではランニングコストがペイできないのではないか。この事業について考えると、尾道市瀬戸田町のシトラスパークが思い浮かぶ。オープンしたときは50万人を超える来場者がいたようだが、2年後には100分の1程度になってしまったということで、今や廃園の危機に瀕しているということだ。第二のシトラスパークにならないように期待している。

(委員長)

先程の発言にあったが、当初の設置目的とずれていて、その現状に甘んじているのであれば、無駄な施設ということになってしまう。とにかく、コンスタントに使うということであれば、園芸教室というのは非常に有効な事業だと思う。お金も時間も余裕のある高齢者は来ると思う。愛媛県的生活文化センターで絵画や習字などの教室をやっているが、ここも高齢者がほとんどだ。松山市の住民を認識して伊予市まで呼び込むといいと思う。ハウスの運営だけでどうにかしろというのは無理があるだろう。

No. 54 グリーンツーリズム対策事業

(委員)

事業費が100万円程度の予算で17千人を超す人が訪れているのであれば、効果があったという見方ができると思う。ただ、石釜ピザというのは、そもそもこの事業のために開発したものではないのではないかと。別途で考えて計上するべきではないだろうか。

(委員)

受け入れ者数が順調に伸びているので、このまま維持し魅力的な体験ツアーを開発していただきたい。

(委員)

受け入れ者数が大幅に増加している理由は分かるか。

(委員長)

モニターツアーが入っているからか。

(事務局)

要因については把握ができていない。

(委員)

根幹となる目標が一つあって、それに枝葉がついていくことが正しいと思う。37メニューと

いうのは非常に多いという印象だ。ある程度中心となるメニューを充実させ、成功したら次の枝葉という展開が望ましいのではないか。

(委員)

37のメニューの中で、受け入れ者の数や年齢、性別等の分析を行い、それを把握した上で柱となるメニューを残し、それに続くものはどれかという整理をしっかりとやっていかなくてはならないと思う。

(委員)

単なるいちご狩りや石釜ピザ体験がグリーンツーリズムになるのかよく分からない。17千人も訪れているようだが、単にいちご狩りに来た人数も含まれているのではないか。グリーンツーリズムの一環としての受け入れ者としては、ここまで多くないのではないか。どこかで誇張され、中途半端な印象を受ける。元々あったものを後からグリーンツーリズムに充てはめたという感じだ。

(委員長)

評価シートの途中経過を見ても、新たなメニューを増やすような記述があるが、少し、現状の認識の程度がよく分からない。メニューに加えたが参加者がいないなど実績が伴わないものは、少し考える必要があるのではないか。37のメニューに優先順位をつけておくことが大事だと思う。

(委員)

この事業でこの地域は潤っているのか。メニューが多すぎて地域の負担となっているのであれば考え直さないといけないと思う。

(事務局)

いちご狩りや石釜ピザは人気があるようだが、他のメニューでは、やめようかという意思を持っているところもあるようだ。そういう現状を踏まえ、モニターツアーを実施し他地域の体験研修を行っているようだ。そこに担当者の意識が集中している部分もある。

(委員)

待っていても人が来るようなものではない。本気でやるのであれば最初は行政がしっかりと支えないといけないと思う。

No. 55 ふたみシーサイド公園管理運営事業

(委員)

多くの人が訪れている施設だが、今年は例年に比べるとどこか寂しい感じがする。私はいつまでも人気が続かないというイメージを持っている。次々とアイデアを出していかないと継続しないのではないか。研修会をして学習しているようだが、高齢者をターゲットとした事業展開など経営を意識したことも考えないといけない。施設の老朽化に伴って修繕等にも経費がかかるし、維持していくことはなかなか難しいと思う。レストランもあまり賑わっていないようだし、夏には多くの人が訪れるが、地元住民からすると外の方が遊びにきて汚して帰るといったイメージがある。

(委員)

定着しているイベントもあり、海水浴場として恵まれた立地もあり、観光客を呼び込むことが期待できると思う。課題認識に当地区ならではのイベントを指定管理者が自主開催できるような指導、助言を行いたいとしているが、本当にしっかりとしていただかないといけない。来場者の世代別やシーズン別、曜日別の把握、そういうところをしっかりと押さえた上で検討していただきたい。売店はスペースが狭く、それぞれにレジがあって待ちくたびれてしまうということがある。利用者の立場を無視しているかのようなので、レジを共用にして買い物がしやすいように改善を図るなど、やることはたくさんあると思う。

(委員)

レジに関しては、出店している方が違うから別会計になるのだろう。

(委員)

レジの共用化を図り買い物がしやすいようにして、休憩スペースを広くするということができないだろうか。売上金を分配する方法はいくらでも考えられると思う。工夫を行い限られたスペースを有効活用し、もっと人を呼び込む方法はあると思う。こういうことを着実にやっていただきたい。

(委員)

レジの統一化については、仕組みをしっかりとすれば可能だと思う。高齢者をターゲットにという意見も出たが、時代の変遷によってそういう部分も考える必要があると思う。観光客が498千人も訪れるなど、ふたみシーサイド公園はこの地域で一番重要な拠点となっているので、その中で地域住民の潤いがないと何にもならない。ゴミだけが残ったというのであれば、人が来ないほうがいいので、そのあたりは考えていただきたい。ところで、向こう5年間の直接事業費で平成26年度だけ突出しているが、何か計画しているのか。

(事務局)

施設改修を予定しており、その経費を見込んでいる。

(委員)

いずれにしても、498千人も訪れているのでそれを双海地域で活かせるように考えていただきたい。

(委員)

オープンから18年を迎えたということで老朽化が進んでいるということは分かる。当然、そのための投資ということで施設の修繕改修は必要だと思うが、しっかりと人が集まるように活かしてほしい。

(委員)

この近辺では道後温泉、松山城、内子のからりと並んで、集客力の高い施設だと思う。今後も魅力のある施設として運営をお願いしたい。以前、この施設内の防波堤で転落事故があったと認識しているが、安全な維持管理に努めていただきたい。また、この評価シートには活動指標として売上金が記載されていないが、重要な指標となるので記載していただきたいと思う。

(委員長)

施設の老朽化についての言及が多いが、どういう施設として活用していくのか。要するに物販を中心とするのではなくて、利用者に委ねる姿勢でいくのであれば施設の意味が違ってくると思

う。全員が納得するものはなかなか難しいとは思いますが、知恵を出し、長い目で見るとして大きな失敗例にならないようにしてほしい。

(委員)

高齢者を乗せたバスが多く来るので、夕日のミュージアムを開放し、食事やお茶を提供するなどゆっくりと休んでもらえるようにするなど、高齢者施設の入所者もたくさん来られるような施設にするのも一つの方法だと思う。また、お金にはならないかもしれないが、週に1回程度、小学生向けに漁業の歴史などを勉強する場として利用するのもいいと思う。教材はあるし、地元の方に講師をお願いすればいい学習機会になる。発想はいろいろあると思う。

(委員長)

店舗のスペースは広いようで狭い。レストランもそうだ。もう少し、海が満喫できる開放感あふれるというようなものが必要だと思う。

No. 56 市民会館管理運営事業

(委員)

成果指標として利用件数を設定しているが、何回使われたという表現よりも会議室の利用可能時間と利用時間から稼働率を示すほうが分かりやすいと思う。

(委員)

廃止が決まっているのでこれ以上言うこともないのだが、きちんと維持管理を行い事故のないようにしていただきたい。

(委員)

活動指標で使用状況が減少しているのに使用料収入が増えているのはどうしてか。使用料を値上げしたのか。

(事務局)

値上げはしていない。利用のあった部屋の単価が違うからではないだろうか。

(委員)

もう少し分かりやすく記述してほしい。

(委員)

廃止が決まっていることをここまで強調しなくてもいいと思う。来年はきちんと仕事をしますというように記述していただきたい。

(委員)

廃止されるので、3月まで事故のないように管理運営をお願いしたい。

(委員長)

それこそ管理運営なので、健全な状態で事故が起こらないようにしていただきたいということだけだ。

No. 57 防災一般事務

(委員)

災害に強い地域づくりを目指し防災士養成講座を行っているようだが、どのような方が受講し

ているのか。

(事務局)

市内に64団体の自主防災組織がある。各団体から1名ずつ推薦してもらい受講していただいている。

(委員)

養成講座を受けた防災士の方が講演会等を実施されているということで、防災意識を高められていると思うが、訓練の実施となるとなかなか大変だと思う。1箇所ずつ、少しずつでもモデル地区として訓練を増やしていき、全体の意識を高めていくということは大切だと思う。

(委員)

直接事業費の使途について教えていただきたい。それに関連して、活動指標である活動支援補助金の交付を受けた団体が平成22年度に比べ減少している理由を教えていただきたい。また、備蓄物資の配備は十分なのか。

(事務局)

直接事業費の中身で一番大きいものは備蓄物資の購入費2,476千円である。それ以外では防災士の資格登録料が530千円、残りは事務経費である。

この補助金は活動に対する補助であり、自主防災組織は3年間に1回は防災訓練や研修等の活動をするようになってきている。平成22年度に24団体が実施し、平成23年度に19団体が実施したということだ。

各自自主防災組織の資機材の保管はそれぞれの団体に任せているところだ。保管場所が十分に確保できないところについてはすべての資機材が揃っていないところもあるようだが、対象となる資機材はハンドマイク、消火器、救助用はしご、ロープ、発電機、消化ホース、消火栓ボックス等である。なお、備蓄物資の購入額が大幅に増加したのは、備蓄物資を救援物資として東日本大震災の被災地へ送り、その補充を実施したためだ。

(委員)

備蓄物資について、他自治体では乾パン等の賞味期限が切れればきちんと補充をしているようだが、伊予市もきちんとできているのか。

(事務局)

消耗品ではあるが、備蓄物資の台帳を整備し管理を行っている。

(委員長)

そのあたりが情報として市民へ伝わっていないということだろう。

(委員)

自主防災組織の目的は何だ。消防団に加えて自主防災組織を作ったのはどうしてか。

(事務局)

消防団は火災等の現場に駆けつけ活動するが、自主防災組織はそれぞれの組織の中で防災の啓発等、意識の高揚を図ることが目的であって、消防団とは役割が違ってくる。

(委員)

物資を配布するのはいいが、置くところに困るところもあるだろう。行政が見切り発車をしている気がするがどう手当てするつもりか。

(事務局)

すべての団体に物資は配布されていると思う。しかし、先程も説明したとおり発電機などはすべての団体には配布されていないと思うが、近くの公の施設も防災倉庫として使用してもいいということを周知している。

(委員)

消防と消防団と自主防災組織の関係はどうなっているのか。

(委員長)

自主防災組織というのは、消防や消防団と違って日常的な町内会や自治会を単位とする防災のための組織だ。

(委員)

災害時に何かあったときに活動するのか。

(委員長)

災害時というよりは、日常的な活動だ。

(委員)

何をするのか。研修するだけか。

(事務局)

地域住民の防災意識の普及活動、防災の連携、点検、訓練等を行う。

(委員)

何かあったときの訓練じゃないのか。

(委員)

消防団は訓練している。

(委員長)

それは、消防団としての訓練で地域住民全体としてではないのではないか。

(委員)

中山地域は消防団の訓練に消防団以外にも地域住民も集まってくると思う。ところで、命令系統はどうなっているのか。各団体の連携が取れないといけないので、自主防災組織の命令系統がどうなのかははっきりしてほしい。

(事務局)

自主防災組織自体が消防団のような活動をするわけではない。住民と一緒に避難すると考えてもらったほうがいいかもしれない。

(委員長)

実働部隊として自主防災組織が動くことはありえない。

(委員)

一緒に逃げるのか。

(事務局)

訓練の中には、その逃げ方の訓練もあるだろう。

(委員長)

つまり、消防団や消防士の仕事の前までの活動だ。

(委員)

概ね理解できた。組織として十分に活動できるように行政として支えていただきたい。

(委員長)

伊予市に限らず自主防災組織はどこ自治体でも組織されている。要するに、消防や消防団が出動するような大きな災害になる前の段階だ。あるいは、今後、南海大地震がいつくるのか分からないから、それに備えて日常的な意識の啓発も含め生命や財産、身体を安全に守っていこうということだと思う。

(委員)

防災士の養成に関して予定を上回る実績を残しているのだから、今後、しっかりと備えていただきたい。

(委員長)

防災士を認定しているところはどこか。

(事務局)

日本防災士機構である。

(委員長)

しっかりしていただきたいということしかない。

No. 58 災害派遣事業

(委員)

職員の派遣人数や支援物資の個数、寄付金額が適切であるかどうかは判断できないが、支援体制については評価できると思う。平成23年度が終了ということになっているが、今後も続けていく計画はあるのか。

(事務局)

義援金については継続していくことになっている。また、職員の派遣も継続している。

(委員)

今後、伊予市が災害に襲われた際にも役立つと思うので、スキルを身につけるという意味からも人材派遣については非常に大きな意味があると思う。土木技術者等々の派遣を今後も続けてほしいと思う。

(委員)

人道的な立場からも適切な支援を継続していただきたい。

(委員)

事業費を1,200万円程度予算計上しているのに、800万円程度しか執行していないが、理由があるのか。

(委員長)

当初計画よりも派遣できた人数が少なかったということではないだろうか。

(委員)

何日程度派遣されるのか。

(事務局)

実績からすると1週間から2週間だ。

(委員)

自己評価、一次評価共に有効性がC評価であるが、他人事ではなく自分の事と置き換えると、有効性はA評価でもおかしくはないと思う。南海大地震が起こると言われている中で、東日本大震災であれだけの事態になっているのを見ているのにこの評価はおかしいと思う。職員の意識改革も必要ではないか。

(委員)

派遣希望者が34名いるということで安心した。

(委員)

寄付はできても、なかなか私自身が被災地に行くことはできないので、行かれる方に頑張っていただいて、人的支援をしっかりとっていただきたい。

(委員)

派遣した職員はどんな仕事をしているのか

(事務局)

実績としては、り災証明の発行にかかる事務、また、その他にも保健師によるカウンセリング業務の支援等を行っている。

(委員)

貴重な経験だと思うので、その経験を活かしていただきたい。

(委員長)

自己の課題認識に、今後6ヶ月から1年程度の長期の派遣要請があるが調整が必要であるということだが、伊予市では長期派遣された職員はいないのか。

(事務局)

今のところは短期での派遣になっている。

(委員長)

難しいところだろう。そもそも派遣を希望する職員という部分が一番難しいのではないかな。自ら進んでという職員ばかりではないだろうし、そこが一番の課題であろう。派遣されれば、職員の意識も少しは変化があるとは思うが。

(事務局)

復興にスピードが求められていると同時に、派遣職員の仕事もスピードが求められるようだ。正義感を持ち派遣に応じた職員も、現地での目まぐるしいスピードの中で判断を迫られる状況もあり、精神的な負担が非常に強く、途中で帰ってこなくてはいけなくなる事例もあるようだ。そのあたりで慎重にならざるをえないところもある。

(委員長)

派遣はコンスタントにやってもらわないといけないとは思いますが、言うは安し、行うは難いかもしれない。

No. 59 伊予消防署整備事業

(委員)

まだ完成していないのか。

(事務局)

本体は完成しているが、訓練棟や倉庫棟が残っている。

(委員)

課題認識にあるように、災害活動拠点としての機能が十分果たせるように充実した設備を備えた庁舎を目指して整備されていると思うので、経費は莫大だがもしものときに対応できる施設であってほしいと思う。

(委員)

工程表どおりに整備が進めばそれでいいと思う。

(委員)

特に言うことはない。新しい耐震設備を備えた消防署で何かあってもすぐに対応できるように訓練を行っていただきたいと思う。

(委員)

速やかに整備を行い、市民のために活用していただきたい。

(委員)

改善策の具体的取り組みで、備品等の保管場所、消防車両駐車スペースの確保ということが記述されているが、それ以外は水平耐力向上のためにこの庁舎を整備したと読めるので、もう少しその他の目的なり、整備方針をはっきりさせてほしかったという印象だ。それと、標高が2メートルくらいしかないところなので消防署の場所として適しているのかどうか。警察署も消防署も同じレベルの高さに位置していることから地震、津波に脆弱ではないかという不安がある。

(委員長)

私も標高に関しては考えなくもなかったが、さりとて他に場所があるのかというところだ。

(委員)

警察、消防が真っ先に避難しなくてはいけないのではないのかという不安がある。

(委員長)

それについては、あの辺りに施設がないといけないという必然性が認められるのであればしかたないと思う。合併してもなお、あの位置が最適だったのかと判断できるのかどうか。消防事務組合なので他地域や他町も候補として考えられないこともない。他の場所と比較検討して、劣位に置かれるようでは本署としてはいかなものかと思う。

(3) 次回の委員会

① 日程

第8回の委員会は、平成24年10月17日(水) 18時30分から

第9回の委員会は、平成24年10月31日(水) 18時30分から

(4) その他

3 閉会